

新潟と中国・黒龍江省との友好協力関係30周年

交流の歩み Activity Report

<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/>
n_jcfa@ybb.ne.jp



特定非営利活動法人
新潟県日中友好協会

1979 Established



表彰理由

1979年の設立以来、中国との交流を進め、その活動を通じて新潟県の国際交流の推進に寄与している。

近年では、杜爾伯特蒙古族自治县「白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業」や「新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”植樹事業」、並びに、JICAの草の根技術協力事業として、荒漠化が進む黒龍江省嫩江流域における生態林建設の技術協力を行うなど、国際協力に取り組んでいる。

◆1979年5月13日

新潟県日中友好協会創立



初代会長 佐野藤三郎

この協会は、思想、信条、政党政派の違いを越えて、各界各層の日中友好を願う人々が、日中共同声明を基礎として締結された日中平和友好条約にのって、日中友好の一点で結集する県民組織である。

この協会は、子々孫々、未来永遠にわたる日中両国民の相互理解と友好連帯に尽くし、日中友好を発展させるため新潟県内で地域活動を行い、もって日本と世界の平和と繁栄に貢献することを目的とする。

◆1979年 5月

「中日友好の船訪日代表团」（团长：廖承志）を新潟に招致

日中平和友好協約締結（1978年）を記念し、600名の大型代表团が新潟を訪問。新潟県と中国との交流は、これを契機に急速な発展を遂げる。



廖承志团长（中央左・花束）

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆1979年 8月

「黒龍江省農業基本建設技術協力団」を派遣

黒龍江省三江平原農業総合開発計画に係わり、開発対象地域の現地調査を実施。宝清県龍頭橋地区を農業総合開発計画のモデル地区に概定した。



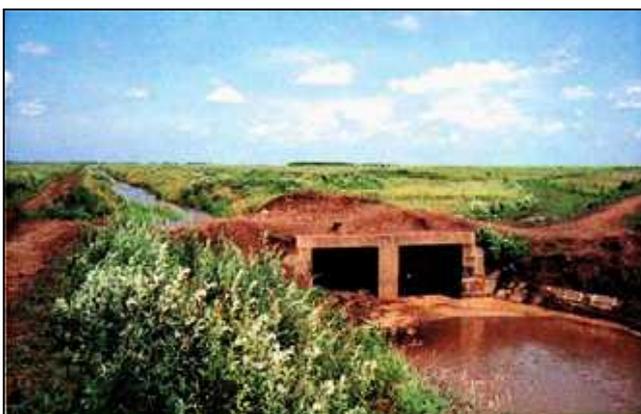
左：佐野藤三郎団長 右：奥村俊二副団長
背景は、“三江平原開発治理総図”（当時は、部外秘だった。）



開発を待つ低湿地



取水工



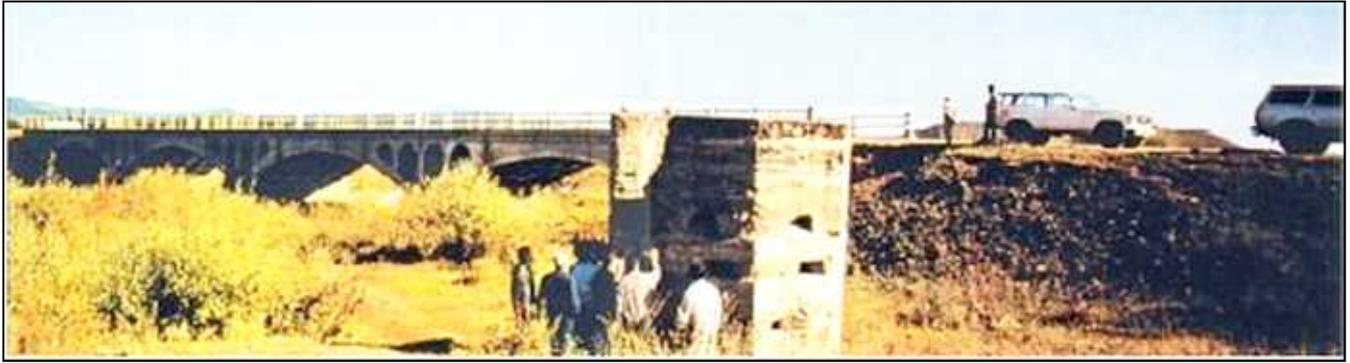
用水路



水田

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会



宝清県地内“宝石河”河川敷に遺る旧日本軍のトーチカ



「黒龍江省農業基本建設技術協力団」の一部団員
宝清県招待所

延べ3千kmに及び現地踏査を経て、宝清県龍頭橋地区を農業総合開発計画のモデル地区に概定した。



特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆1981年 8月～1984年 3月

その後、同開発計画に係わる技術協力は日中政府間協力事業として継承され、国際協力事業団（JICA）は「三江平原龍頭橋典型区農業開発計画」調査を実施し、開発事業の概念設計を整えた。



JICAによる開発計画調査団には、新潟からも4名の専門技術者（灌漑排水1名・地質調査3名）が参加した

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆1985年 9月～1993年 3月

JICAによる技術協力事業はさらに「三江平原農業総合試験場」プロジェクトへと引き継がれた。



1985年12月、「三江平原農業総合試験場」実施協定締結
(黒龍江省水利庁に於いて)

1988年10月、灌漑ユニットの起動式
典(「三江平原農業総合試験場宝清試
験場」に於いて)



◆1979年10月

「哈爾濱医学考察団」を招聘

考察団の提案を受け、新潟市長が哈爾濱市との友好都市提携の意向を
表明。

◆1979年12月

新潟市と哈爾濱市が友好都市提携



川上喜八郎新潟市長と文敏生哈爾濱市革命委员会主任



大久保政賢国貿促新潟支局会長(左・背)

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆1980年12月

「中国人民对外友好協会黒龍江省分会」代表団を招聘
新潟県農業協同組合中央会と哈爾濱市新発人民公社が友好関係締結。

◆1981年 7月

「黒龍江省雑技芸術友好訪日団」を招聘
新潟県内16会場で計32回公演。総入場者数は34,000人にのぼった。



エンディングテーマは“中日友好萬古長青”

◆1981年10月

「黒龍江省大学教育考察団」を招聘
黒龍江大学と新潟大学との友好関係締結の希望を表明。

◆1982年10月

国交正常化10周年を記念し、「新潟県民友好の翼」訪中団を派遣
新潟県獣医師会と黒龍江省畜牧獣医学会が友好関係締結。



雑技団の団員と再会

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆1983年 3月

「黒龍江省社会科学院訪日団」を招聘

新潟県知事と黒龍江省省長の相互訪問が合意される。

新潟大学で講演する李剣白団長（右）



◆1983年 8月

新潟県と黒龍江省が友好県省提携



君健男新潟県知事と会談する陳雷黒龍江省省長（前列・左二）

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆1983年 8月

陳雷黒龍江省省長、新潟大学訪問

新潟大学と黒龍江大学は、同年9月に友好協定締結。

猪初男学長に自書を贈る陳雷省長



◆1985年12月

「日本海圏経済研究会」の創立に参画

後年、その活動はERINAに引き継がれた。



◆1986年 3月

「黒龍江省テレビ台代表団」を招聘

テレビ新潟放送網と黒龍江テレビ台が友好協定締結。

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆1987年 1月

“梅山豚”・“東北民豚”を受け入れ

黒龍江省より上記種豚を受け入れ、新潟県畜産試験場にて繁殖試験を実施。

◆1987年 2月

「黒龍江省航空路問題代表団」を招聘

“新潟～ハバロフスク経由～哈爾濱”チャーター便運航の可能性について協議。

後年(1989年9月)、“哈爾濱～ハバロフスク”定期航空路が開設される。

金子清新潟県副知事と会談する王承志
黒龍江省人民政府副秘書長(左列左二)



◆1987年 5月

「黒龍江省農業機械技術訪日考察団」を招聘

試験研究用田植え機を寄贈。

新潟クボタが三台寄贈



◆1987年 7月

黒龍江省で“5.6大興安嶺火災”が発生

104万haが焼失し5万人が被災したことを受け、77万余円の見舞金を黒龍江省人民政府に寄託した。



◆1987年 9月

「新潟日報社代表団」を派遣

新潟日報社と黒龍江日報社が記者交換等友好協定を締結。

◆1988年 3月

「黒龍江省集装箱輸送視察団」を招聘

“綏芬河～グロデコボ”コンテナルートの開設について協議。

◆1988年 8月

友好県省提携5周年を記念し、省政府代表団来県



陳雲林黒龍江省人民政府副省長（右一）

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆1988年 9月

『日本海シンポジウム』開催

黒龍江省及び哈爾濱市、ハバロフスク地方及びハバロフスク市より代表を招聘し、新潟初の日・中・ロ国際会議を開催。

“日本海圏交流”の概念を提示。後の“環日本海経済圏構想”の端緒となる。



◆1988年10月

「新潟県日中友好協会三江平原開発調査団」を派遣
三江平原の外資導入開発計画に係わり、現地調査。

◆1989年 9月

「哈爾濱～ハバロフスク航空路開設慶祝団」を派遣
“哈爾濱～ハバロフスク”定期航空路が開設される。

◆1990年 9月

「新潟県対外科学技術交流協会代表団」を派遣
新潟県対外科学技術交流協会と黒龍江省対外科学技術交流センターが友好交流協定締結。

◆1990年10月

「黒龍江省農業代表団」を招聘
“三江平原合作開発検討会”を開催。

◆1991年 7月

「三江平原農業総合開発視察団」を派遣

“三江平原龍頭橋ダム及び灌漑プロジェクト”を円借款対象案件とすることに係わり、黒龍江省政府並びに国務院関係部門と協議。



特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会



田紀雲國務院副総理と会談し、龍頭橋ダムPJの円借款案件編入を提案

1991年7月 人民大会堂に於いて

◆1991年 8月

黒龍江省政府が中国国家計画委員会に“龍頭橋ダム建設プロジェクト建議書”を提出

◆1992年10月

“龍頭橋ダム建設プロジェクト建議書”が「黒龍江省円借款利用龍頭橋ダム建設項目」の名称で国家計画委員会の正式批准を得る

◆1993年 2月

「黒龍江省水利考察団」を招聘

「黒龍江省円借款利用龍頭橋ダム建設項目」に対する第四次円借款供与の可能性について日本政府関係機関等と協議。併せて、同プロジェクトの補充調査に係わり、日本政府の無償技術協力を要請。

◆1993年 3月

黒龍江省政府が中国國務院関係各部に対し「黒龍江省円借款利用龍頭橋ダム建設項目」を第四次円借款案件に編入するよう改めて要請

同時に、黒龍江省政府が在中国日本大使館を通じ「龍頭橋プロジェクト準備段階無償援助願書」を提出

◆1994年 2月

第四次円借款供与希望リスト（計71件）が中国側から提示される
龍頭橋ダム建設プロジェクトが「黒龍江省三江平原商品穀物基
地建設及び龍頭橋ダム建設項目」として中国側提示リストに載る。

◆1994年 9月

「龍頭橋プロジェクト準備段階無償援助願書」に基づく技術専
門家の派遣並びに関連調査器材等の供与が決定

◆1994年12月

日中両国高級事務レベル協議において、龍頭橋ダム建設プロジェ
クトを含む第四次円借款前三年分計40案件（総額5,800億円）の
供与が決定

◆1995年 8月

黒龍江省人民对外友好協会との第11回定期会議開催



王耀臣副会長（右二）と会談する
高橋傳一郎新潟県日中会長（中央）

◆1996年12月

中国のCTBT（包括的核実験禁止条約）加盟を受けて日本政府の
対中政府開発援助実務協議が再開され、1996年度供与案件として
「黒龍江省三江平原龍頭橋ダム建設事業計画」が決定
供与限度額は30億円

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆1998年 6月

“新潟～哈爾濱”定期航空路開設

◆1998年 8月

嫩江・松花江流域に150年に一度の大洪水が発生し、850万人が被災
義捐金を募り、140余万円を黒龍江省人民政府に寄託。



◆2000年 6月

「中日友好協会代表団」（団長：宋健会長）を招聘
両協会間の協力関係強化について協議。



ERINAを訪問し、図們江開発構想について意見交換する宋健中日友好協会会長（右三）

◆2000年10月

黒龍江省青少年発展基金会在実施している“希望工程”（貧困が原因して就学し得ない児童生徒に対する就学援助等のプロジェクト）の主旨に賛同し、同基金に対し30万円を寄金

◆2001年 2月

「新潟大学農学部代表団」を派遣

新潟大学農学部と東北農業大学（哈爾濱市）との学术交流協定締結について協議。

◆2001年 8月

「東北農業大学訪日団」を招聘

新潟大学農学部と東北農業大学が学术交流協定を締結。

◆2002年 7月

「“希望工程”現地研修団」を派遣

大慶市杜爾伯特蒙古族自治県及び林甸県を訪問し、現地の教育条件整備状況等を実地に研修。



杜爾伯特蒙古族自治県白音諾勒村小学校



白音諾勒村小学校の教室（雨漏りが激しい）



永合小学校の教室（梁を支柱で支えている）



林甸県四合郷永合小学校

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆2002年10月

「三江平原龍頭橋ダム竣工慶祝団」を派遣

同ダムの竣工確認のため現地を訪問。併せて、竣工を慶祝。



堤体基礎工事



撮影：2001年9月



完成間近いダム全景 撮影：2001年9月



供用を開始した龍頭橋ダム全景



左：発電用トンネル 右：灌漑用トンネル



建設中の頭首工



下流域の水路

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆2002年11月

「黒龍江省外事弁公室訪日団」（団長：劉忠原主任）を招聘
“嫩江流域生態モデル林建設計画”への協力を要請される。

◆2003年12月

大慶市杜爾伯特蒙古族自治県白音諾勒郷“白音諾勒村小学校
教育条件改善協力事業”打合せミッション・“黒龍江省嫩江流域
荒漠化地区生態林建設協力事業”実行可能性調査コンタクトミッ
ションを派遣



劉国録白音諾勒村小学校
校長（左一）との協議



白音諾勒村小学校での協議



白音諾勒村小学校周辺の集落



黒龍江省林業庁との協議



防護林研究所新江実験林場の
樟子松林



防護林研究所（齊齊哈爾）
での協議

◆2004年 5月

“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”2004年次（第一年次）
協力金持参ミッションを派遣

協力金496,000円により、パソコン及び周辺機器10セットとテレビ・DVDプレイヤー1セットを購入し設置。



生徒代表がお礼の挨拶



OSはWindows 98 SE



劉国録白音諾勒村小学校校長
(左二)



DVDプレイヤー・TV

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆2004年 7月

“黒龍江省嫩江流域荒漠化地区生態林建設協力事業”第二次ミッションを派遣

黒龍江省林業庁・黒龍江省防護林研究所との協議の結果、次のとおり合意した。

JICA草の根技術協力（地域提案型）案件申請を直ちに行なう（案件名：「嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業」）。技術協力の対象地は、嫩江中流域に位置する丘陵区・平原区・風沙区とする。

安定した生態林を建設するための基礎的調査研究を行なうとともにモデルとなり得る試験林を造成する。

両県省民参加植樹ボランティアによる植林予定地を杜爾伯特蒙古族自治县白音諾勒村小学校裏手とする。



「沙棘」育苗状況



の試験
土壌水分計（PF計）



嫩江川岸の水衝部（浸
蝕対策の協力を求めら
れる）



杜爾伯特蒙古族自治县境内の
樟子松造林地



JICA案件事業名称の協議



両県省民参加植樹ボランティアによる植林予定地

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆2005年 7月

“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”2005年次（第二年次）協力金持参ミッションを派遣

- ・協力金475,000円を持参し、机・椅子100組、複写機1台、OHP2台、顕微鏡8台、録音機6台を購入し設置。
- ・1,800円を持参し、白音諾勒村小学校の教育図書購入に協力。

左：邵彦君 白音諾勒村
小学校校長
右：奥村俊二 新潟県日
中友好協会理事長



待ちくたびれたであろう
子供たち



◆2005年 7月

「新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”植樹の旅」2005を実施

植樹及び維持管理経費241,000円を協力金として持参し、白音諾勒村小学校裏手に“樟子松”を植樹（面積52a）。



植樹を終えて・・・全員で記念撮影（2005年7月）



特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆2005年 8月

“新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業”第一年次専門家派遣（7名）

- ・ 齊齊哈爾市克山県北聯林場・五大連池市二龍山にて二次林及び自然林の現況を調査。
- ・ 齊齊哈爾市甘南県甘南林場（平原区：“カラマツ”防護林）・同市克山県北聯林場（丘陵区：“樟子松”防護林）・大慶市杜爾伯特蒙古族自治県新店林場（風沙区：“小黑楊”防護林）に調査試験区を設定。



克山県北聯林場（左：樟子松每木調査
右：新規植栽試験地）



甘南県甘南林場（左：カラマツ每木調査
右：新規植栽試験地）



杜爾伯特蒙古族自治県新店林場（左：小黑楊防護林
右：新規植栽試験地）



特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆2006年 5月

“新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業”第二年次専門家派遣（3名）

齊齊哈爾市甘南県甘南林場・同市克山県北聯林場・大慶市杜爾伯特蒙古族自治県新店林場において調査並びに技術指導を実施

列状間伐区における列状間伐実施後の状況等調査並びに追加植栽に係る技術指導
新規植栽区における新規植栽に係る技術指導。



杜爾伯特蒙古族自治県新店林場
調査試験区
50%間伐区



杜爾伯特蒙古族自治県新店林場
調査試験区
新規植栽区



杜爾伯特蒙古族自治県新店林場
調査試験区
樟子松植栽状況



甘南県甘南林場
調査試験区
50%間伐区



甘南県甘南林場
調査試験区
新規植栽区



甘南県甘南林場
調査試験区
樟子松植栽状況



克山県北聯林場
調査試験区
30%間伐区



克山県北聯林場
調査試験区
新規植栽区



克山県北聯林場
調査試験区
樟子松植栽状況

◆2006年 6月

“新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業”
第二年次研修員受け入れ（5名＋同行通訳1名）

- ・日本における飛砂防備・水源涵養・水害防備等の保安林や生物多様性を目的とした林相改良等の状況について研修。
- ・森林施策や維持管理の考え方並びに環境学習の現状について研修。
- ・森林の多様性や高度利用についての共通認識の醸成。



里山林の生物多様性現地研修



スギ人工林密度管理現地研修



海岸飛砂防備林現地研修



新潟県森林研究所



原生状態ブナ林現地視察



列状間伐施業地現地視察



長期循環林施業地現地研修

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆2006年 7月

“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”2006年次（第三年次）
協力金持参ミッションを派遣

協力金504,000円を持参し、パソコン及び周辺機器10セットと卓球台1セットを購入し設置。



低学年の子どもたちが歓迎してくれた
みんな、目が輝いていた

中央：長谷川義明新潟県日中会長
右端：徐廣明省外事弁公室日本処処長



PC 10セット
OSはWindows 98 SE
MS officeのフルセットが
インストールされていた



卓球台 1セット

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆2006年 7月

「新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”植樹の旅」2006を実施

植樹及び維持管理経費217,000円を協力金として持参し、白音諾勒村
小学校裏手に“樟子松”を植樹（面積48a）。



2006年の初夏から比較的降雨が多く、緑が目立つ



傾斜地は地表水が流れやすく、裸地のまま



植栽地の奥には大豆が植えられていた



◆2006年 8月

“新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業”
 第二年次専門家派遣（7名）

齊齊哈爾市甘南県甘南林場・同市克山県北聯林場・大慶市杜爾伯特蒙古族自治県新店林場において生育状況等調査、並びに、関連資料の収集・解析等を実施

列状間伐区における追加植栽後の生育状況等調査、新規植栽区における新規植栽後の生育状況等の調査
 列状間伐後の光環境改善状況等の調査
 列状間伐後の林床植生変化の調査、新規植栽区・対照区の侵入植生調査
 「生態林造成ガイドライン」策定に資する中国内研究成果資料及び調査試験区周辺の土地利用状況・社会環境に関する資料の収集と解析、間伐材利用状況等の調査。



全天空写真撮影（克山県北聯林場）

全天空写真



甘南県甘南林場 調査試験区（30% 間伐区）チョウセンハリモミ



区 杜蒙県新店林場 調査試験区（30%間伐区）



調査 区 杜蒙県新店林場 調査試験区（間伐区）侵入植生



克山県北聯林場 調査試験区（50% 間伐区）



実生 区 甘南県甘南林場 調査試験区（間伐区）落葉松

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

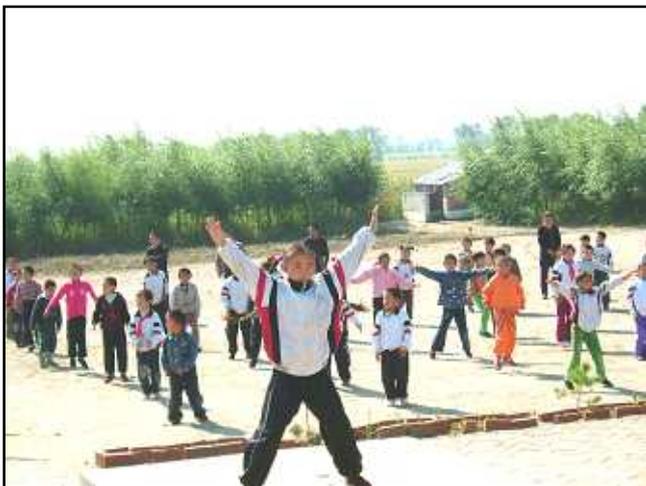
◆2006年 9月

“新潟・国際協力ふれあい基金”助成プロジェクト現地スタディ・ツアーの実施協力

新潟大学教育人間科学部生・院生等が、基金の助成プロジェクト現地（杜爾伯特蒙古族自治县白音諾勒村小学校）及び、“新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業”現地（同県新店林場）を視察。



パソコン学習の様子



子どもたちと“ラジオ体操”



「愛心工程」について受講（県教育局）



小中学校統廃合計画図

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆2007年 7月

「新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”植樹の旅」2007を実施

植樹及び維持管理経費162,000円を協力金として持参し、白音諾勒村小学校
正門側・南側に“樟子松”を植樹（面積48a）。



校舎正門側



校舎南側



校舎正門側



校舎南側 樹種は“樟子松”



校舎南側

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆2007年 9月

“新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業”
第三年次（最終年次）専門家派遣（5名）

齊齊哈爾市甘南県甘南林場・同市克山県北聯林場・大慶市杜爾伯特蒙古族自治
治県新店林場において生育状況等追跡調査、並びに、生態林造成ガイドライン
策定に係る協議を実施

植栽木生育状況等の追跡調査、林床植生変化及び侵入植生の追跡調査
調査試験区周辺既存林の分布調査

「自然侵入を誘導する手法」、並びに、間伐処理方法と間伐後の実生
侵入との関係等についての検討

植栽樹種の生産及び植栽技術に係る技術指導

「生態林造成ガイドライン」策定に係る協議。



杜蒙県新店林場 30%間伐区の様相 家畜による
食害と被圧



杜蒙県新店林場 コドラート外で見つかった“家榆”の実生



甘南県甘南林場 侵入植生調査 落葉松の実生（間伐前には全くみられず）



甘南県甘南林場 対照区（非間伐区）林床表土（5～6cm）には水分がほとんど無い



克山県北聯林場 間伐区 ほとんど成長していない
チョウセンハリモミ



調査 克山県北聯林場 間伐区 侵入植生

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆2007年10月

“新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業”
第三年次（最終年次）研修員受け入れ（4名＋同行者2名）

生態林造成後の育成や更新管理技術の研修、並びに、「生態林造成ガイド
ライン」策定に係る協議。



推進連絡調整会議との協議



新大佐渡ステーション（本間准教授の講義）



新大佐渡演習林（スギ天然林視察）



新大農学部紙谷教授の講義（森林の多様性保全）



保安林現地視察（新潟県山北町）



「ガイドライン」策定に向けた最後の協議

特定非営利活動法人

1979 Established **新潟県日中友好協会**

〒951-8068

新潟市中央区上大川前通7番町1243

新潟商工会議所中央会館2階

TEL.025(224)6050 FAX.025(224)6051